

授業における通信コミュニケーションの活用

丹羽 恵理子*1

＜概要＞ コミュニケーションの一手段としての電子メール、電子掲示板を検討・考察する。
特にコミュニケーションの特性としての、広がり方、深まり方に注目し、授業での活用方法について検討する。

＜キーワード＞ 情報ネットワーク、ヒューマンインタフェース、電子メール、電子掲示板、コミュニケーション

1. はじめに

電子メール、電子掲示板などによるテキスト情報のネットワーク上での流通に留まらず、マルチメディア情報が広くネットワーク上で流通し始めて久しい。授業においても、学生による情報収集およびプレゼンテーションの場として利用されてきている。

情報収集およびプレゼンテーションの集積の一つの形態がコミュニケーション形成だといえよう。本発表では、このような電子ネットワークを利用したコミュニケーション（以下、コンピュータコミュニケーションとする）の生成について検討する。電子メール、電子掲示板などをすべてコミュニケーション生成のためのツールとして捉えたときの、その効果や影響を考える。

2. 目的

研究活動についてはもちろん、特定話題に関するデータ収集や情報交換においてコンピュータコミュニケーションの果たす割合が増加しつつあると実感されている。単純な情報収集のみではなく、電子ネットワーク上で対話しつつ議論したり問題を解決することも現状以上に行われるようになると予想される。こうした中で、有効なコンピュータコミュニ

ケーションの在り方、そのための教育の方法について検討されることは不可欠だと考えられる。本研究では、そのための1つの参考データとすべく、現状のコンピュータコミュニケーションにおけるメッセージ形成の現状を分析する。

3. 調査の方法

筆者は、大学入学時の計算機環境の演習授業を2クラス担当し、演習において電子メールおよび電子掲示板を積極的に利用している。こうしたコンピュータコミュニケーションが、学生達の間でのコミュニケーション形成にどのような影響を及ぼしているのか、その形成過程を観察し、調査を行った。

また、商用ネットワーク上の電子会議室についても、同様の観察を行った。

授業でのコンピュータコミュニケーションと商用ネットワーク上におけるそれとの特質を比較し、授業に有効なコンピュータコミュニケーションの在り方を検討した。

4. 調査結果

商用ネットワークにおけるコミュニケーションの現状は、各会議室における中心メンバ

*1

NIWA, Eriko : 産能大学 email niwa@ni.sanno.ac.jp

の性格によるところが大きいことなど、通常の対面コミュニケーションと同様の性格を有する一方、匿名性や随時性などによる特異な面を持つことがわかった。

一方、授業におけるコンピュータコミュニケーションにおいては、匿名生がないこと、随時性などから、より密度の濃い熟慮されたコミュニケーションが形成される一方で、形成者の偏りや、意思の疎通の不備なども観察された。商用ネットワークの仕組みの一部（例えば司会役の設定など）が、授業においても有効に機能する可能性があるとの結論も得た。

5. おわりに

今回の調査は、ごく基本データの分析にすぎないが、コンピュータコミュニケーションのためのリテラシー教育の方向を考える有効なデータを得ることができたと思う。今後は、今回得た結果を元に具体的な教育方法や環境を検討してゆきたいと思う。また、コンピュータコミュニケーションに起こりつつある新しい現象（例えばG U Iの浸透など）をも考えつつ、将来的に有効な方法を考えてゆくことが必要だと考える。

参考文献

竹内郁郎「マスコミュニケーションの社会理論」（『現代社会学叢書』、東京大学出版、1990年）

R.E.Rice, (ed.), New Media : Communication, Research and Technology, Sage, 1984

金子郁容『ネットワークへの招待』（中央公論社、1986年）

川崎賢一、往住彰文、川浦康至、高木晴夫、遠藤薫、橋爪大三郎、安川一『メディアコミュニケーション』（富士通ブックス、1994年）

室謙二、津野海太郎『コンピュータ文化の使

い方』（思想の科学社、1994年）

小林修一、加藤晴明『《情報》の社会学』（福村出版、1994年）

川上善郎、川浦康至、池田謙一、古川良治『電子ネットワークの社会心理 - コンピュータコミュニケーションへのパスポート -』（誠信書房、1993年）

宮田加久子『電子メディア社会 - コンピュータコミュニケーションへのパスポート -』（誠信書房、1993年）

川上善郎「コンピュータ・コミュニケーションによるネットワーク形成に関する研究 - オンラインコミュニティの可能性 -」（『情報研究』11号、1990年、文教大学 情報学部）129-147頁

電通総研編『情報メディア白書1995年度版』（電通総研、1995年）

マルチメディア研究会編『徹底検証 日米欧マルチメディア政策』（クリエイト・クルーズ、1994年）

川浦康至編「メディアコミュニケーション - コミュニケーターの心理 -」（『現代のエスプリ』306号、1993年1月号、至文堂）

川浦康至、池田謙一、川上善郎、古川良治『パソコン通信と情報行動 - パソコン通信の現状に関する調査研究2』（財団法人 電気通信政策総合研究所、1989年）